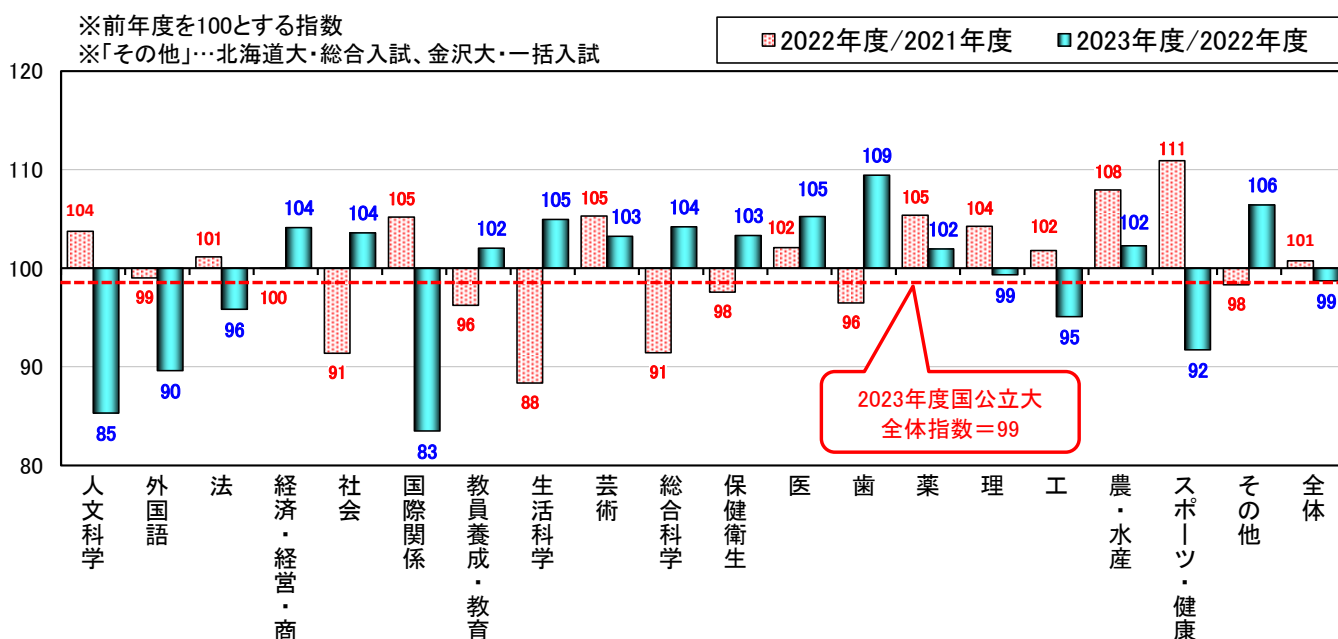


※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎系統別志願状況

### □歯、医、生活科学は増加、国際関係、人文科学、外国語は減少



歯(109)は増加、生活科学(105)、医(105)、経済・経営・商(104)、社会(104)、総合科学(104)、芸術(103)、保健衛生(103)はやや増加でした。一方で、国際関係(83)、人文科学(85)は大幅減少、外国語(90)、スポーツ・健康(92)は減少、工(95)、法(96)はやや減少でした。これら以外の3系統は前年度並でした。なお、2年連続増加したのは芸術、医、薬、農・水産の4系統、2年連続減少したのは外国語のみでした。これらの系統が人気の高低が継続している系統といえます。

文系の系統では、コロナ禍や世界的な物価上昇による渡航費用の高騰などの影響を受けて留学などが不安視される国際関係(83)は大幅減少、外国語(90)も4年連続減少でした。募集単位がいずれかの系統に含まれる東京外国語大(72)はこの系統への低い人気に加えて、共通テストで数学を1科目受験から2科目受験に変更したことも影響し大幅減少しました。職業直結型とは言い難い人文科学(85)も厳しい経済状況から大幅減少でした。一方で、職業直結型の地方大の福祉関係の学部・学科が含まれる社会(104)はやや増加、コロナ禍の中で底を打った感のある経済・経営・商(104)は今後の反転を期待してやや増加しました。

理系では、工(95)は福井大(62)、山形大(64)など地方国立大の減少が影響しやや減少、理(99)は微減ですが、全体指数と同じでした。農・水産(102)はウクライナ問題にも関連して世界的な食糧問題が注目を受ける中で、系統への高い人気が続出し前年度増加の反動はなく微増でした。

メディカル系は、コロナ禍により話題性が依然と高いことに加えて、厳しい経済環境の中で、職業直結型の系統であることから高い人気が維持されています。前年度やや減少の反動も加わった歯(109)は増加、医(105)、保健衛生(103)はやや増加、薬(102)は微増でした。

文理いずれからも志願者がいる系統では、スポーツ・健康(92)は前年度増加の反動で減少しました。一方で、生活科学(105)、総合科学(104)、芸術(103)はやや増加、教員養成・教育(102)は微増でした。ただし、いずれも前年度減少率を下回る増加率で人気アップしたとは言えない状況です。

最後に、複数の系統を一括募集するその他(106)は、金沢大一括入試が文理合計で(188)と激増したことが影響してやや増加となりました。